ライシナ東京での挨拶　【同時通訳】
（令和８年１１月１８日、於：東京）

●外務大臣の茂木敏充です。

●ジャイシャンカル外相を東京でお迎えし、
「ライシナ東京」が盛大に開催されますことを、
心からお祝い申し上げます。
主催者であるＯＲＦ（オーアールエフ）、
国際協力銀行、経済同友会をはじめとする関係者の
皆様の御尽力に、深く敬意を表します。

●国際情勢が一段と厳しさを増し、複雑化する中、
法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の
維持・強化に向けて、日本とインドは共通の責務を
有しています。その両国が手を携え、
相互補完的な協力関係を構築させることの重要性は、
これまで以上に高まっています。

●こうした認識の下、私自身、今年は１月と５月に
インドを訪問し、ジャイシャンカル外相との間で、
率直な議論を重ねてきました。

●また、２０１９年に私が第一回目の会合に出席した
日米豪印外相会合も今年は既に３回を数え、さらに、
国連安保理改革に関するＧ４外相会合も２回開催され
ています。

●今年、最も膝を突き合わせて議論した同僚は
ジャイシャンカル外相である、
このように言っても過言ではありません。

●そして明日には、日印「２＋２」と、外相間戦略対話を実施します。私とジャイシャンカル外相は７年前に第一回目の「２＋２」を立ち上げた外相同士でもあり、信頼と協力関係の積み重ねも踏まえ、協力の地平を更に広げる中味の濃い議論をしたいと考えています。

●さて、今年の「ライシナ東京」では、
安全保障を含む戦略的協力関係、
経済・エネルギー安全保障、
投資・イノベーションでの協業といった
首脳間でも確認された協力の３本柱も踏まえ、
日印はどのように協力し、どのような道を歩むべきか、
率直かつ具体的な議論が行われることと思います。

●日本が提唱する「自由で開かれたインド太平洋」は、インドが掲げる「インド太平洋海洋イニシアティブ」や「マハーサーガル」と軌を一にするものです。
日印両国は、こうした構想の下で協力の具体化を
図っていく考えであり、是非、皆様の議論を通じた
力強い後押しをお願い致します。

●来年は、日印国交樹立７５周年です。
今年の「ライシナ東京」と日印「２＋２」の成功を
通じて、この重要な節目に向けて日印協力の歩み
を更に進めていくという決意を申し上げて、
私の挨拶とさせていただきます。

●ありがとうございました。

（了）